

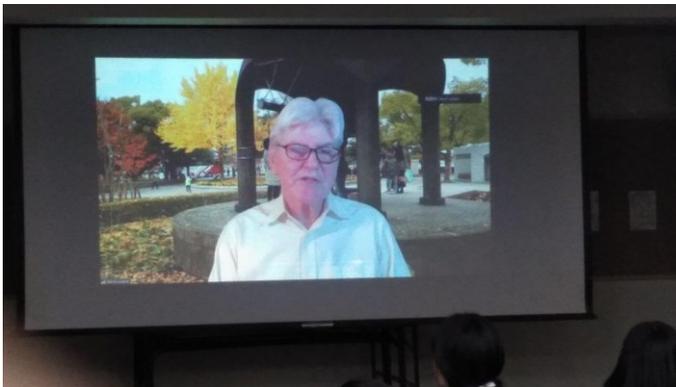
未来への継承と変革

2024 高校生国際理解セミナー

12月22日、広島市青少年センターにおいて、2024 高校生国際理解セミナーを開催しました。

参加者は、取り組み発表を行った広島大学附属中学校・高等学校（広島の高校生が抱く平和への思いーSDGs取り組みを通して）、広島市立基町高等学校（次世代と描く原爆の絵の取り組みについて）、そして広島県立井口高等学校、崇徳中学校・高等学校、安田女子中学高等学校、武田中学校・高等学校の計6校から計26名のみなさんが参加しました。

内容は、オンラインによる基調講演と高校生による取り組みの発表、グループディスカッションなどで、活発な意見交換が行われました。



基調講演

演題 ドナルド・トランプと戦争文化 対 ひろしまと平和文化
※アトランタからオンライン講演
講師 元広島平和文化センター理事長
スティーブ・リーパー氏

— 講演の一部抜粋・要約 —（広報部会 藤川和康）

「今は第三次戦争の戦前と思っている。この戦争を止めるのは私たちの役割です。核戦争にならないことを願っている。核兵器が使われると、後、止めることはできない。文明の終わりです。

アメリカと中国に「戦わないようにしましょう」「核兵器を捨てましょう」と、日本は国連や国際会議、環境会議で訴えてほしい。捨てれば人間は存続できる。核兵器に詳しい日本は、平和文化のリーダーになってほしい。問題解決の仲介役になってほしい。

平和文化のリーダーになるため、どうしたらいいか考えてください。日本人は平和タレント（才能のある人）であり、だから外国語2カ国をマスターし、他（国の人）へ話してください。対立が生まれたら平和的に解決すること。これが平和の文化だ。

全世界の人たちに（広島の高校生たちが）平和のために一生懸命に絵を描き、環境のために活動している姿をみてもらいたい。全世界が広島の平和活動をみれば、世界は平和になるんじゃないかと思う。

皆さんの素晴らしい話や動きをみることができ、広島と私が住んでいるアトランタを、もっと身近につなぐことができればいいと思う。」

参加者の感想

- ・自分に出来ることは少ないと思っていたけれど、高校生だからこそできることがある。
- ・積極的に動いていくことが大切で、その一歩は身近なところにある。
- ・その為には自ら情報を集め知識を得る。
- ・アメリカと現在の状況の一端を知ることが出来た。
- ・アメリカと日本の今への危機感の差。
- ・日本から見る世界と日本の外から見る世界の差を知ることが出来た。
- ・スティーブ・リーパーさんの話で平和ということや平和について、より深く考えるきっかけとなった。
- ・他校の高校生どうして、1つのテーマについてディスカッションすることで、お互いに触発される。

スティーブ・リーパーさんの話で特に印象に残っているのは、ニュースで知る以上に、アメリカ人同士や家族や友人関係の中にまでも、分断が進んでいること。また核兵器使用の可能性への危機感とその対応です。それと現在の世界情勢に対する、アメリカの対応や日本の役割について、中でも”ヒロシマ”や高校生に対する期待です。

以上、私自身も高校生の反応に確かな手ごたえを感じながら、なお世界の未来への一抹の不安を拭えません。
(青少年育成部会 横佩智恵)



活動発表 広島大学附属中・高等学校



広島市立基町高等学校



A班



B班



C班



D班



感想・意見発表

とても実りのあるセミナーでしたね。参加された高校生のみなさん、これからも、高校卒業後も、世界平和を築くために、核兵器廃絶のために何ができるかを考え、出来ることを行動してみましょう。

そして、リーパーさん、とても有益なお話をありがとうございました。また、お力を貸してください。